

令和元年
10月

2019年
みやま

第257号

病院理念
『患者さまの不安をとること』
当院の基本方針
「地域に根ざした安心できる医療」
「精神科医療の充実」
「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団 光生会 平川病院

病院目標『時代が求める価値ある病院づくり』～ネットでつなごう医療の和～

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/> 〔e-mail〕 hhsp1966@violin.ocn.ne.jp

府中看護高等専修学校 嶋岡比登枝先生が退任されました

令和元年7月31日に府中看護高等専修学校の教務主任を長年されていた嶋岡比登枝先生が退職されました。嶋岡先生は昭和54年10月26日に看護師の教員として入職され、昭和59年1月21日から教務主任に就任されます。平成17年3月31日に一度、定年退職されますが、その後も嘱託採用の形で今年まで、生徒たちの教育、指導をしていただきました。なんと在職期間は40年間（第22回生～第63回生）卒業させた学生数は1,819人（第22回生～第61回生）になります。当院でもたくさんの看護師がお世話をになりました。出来の悪かった生徒もたくさんいました。実習態度が悪いとか、成績が悪いとか、補習も何度もしていただきました。学校に呼び出されたときは「適正がないなら、学校を辞めさせていただいても結構です。」と、何度もお詫びをしたのを覚えています。それでも、もう1度、やってみましょうと許していただき、すれすれで卒業、資格試験も冷や冷やで合格なんていう人も少なくありません。そんな生徒でも本当に寛容に、そして厳しく育てていただきました。お蔭様で、当院の看護部の柱になるような人材も発掘することができました。本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。今後も嶋岡先生のご指導を胸に、戴帽式でキャンドルに灯した看護の心を大切に守っていってくれると思います。どうか今後も引き続きご指導いただきたいと思います。



嶋岡比登枝先生

院長 平川 淳一

【表紙】院長挨拶【P2】病棟たより（東4病棟）・職員レクリエーション旅行【P3】リハビリテーション科から【P4】地域生活支援室より【P5】退院時アンケート推移【P6】職員インタビュー（インターナショナルスタッフ）

東4病棟の紹介

東4病棟は男子精神科療養病棟です。ここ数年、患者様の高齢化や長期治療に伴い、誤嚥性を含む肺炎やイレウス・癌などの合併症が増加しました。酸素や点滴、そして吸引などの治療が必要となり、ベッド周辺は点滴台・酸素ボンベ・吸引器と様々な物品と電気コードの配線などで雑然となり、それに加え、酸素ボンベの交換の度、病棟と南館をボンベを持って往復しなければなりません。また、病室の照明だけでは手元が暗く、夜間の点滴針の挿入は一苦労で、患者様にとっても職員にとっても決して良い環境とは言えませんでした。



設置したパイピング

そこで6月に重症部屋（410号室）に酸素と吸引のパイピングを設置。患者様の上には明るい照明を取り付けました。グチャグチャだった配線はすっきりし、電気コードが足元に絡むこともなくなり、壁から使用できる酸素と吸引器で効率よくかつ気持ち良く看護ケアができるようになりました。ボンベ搬送も少なくなり、スタッフの負担も減少しました。



新しいマットレス

また、8月には、東館3病棟で新しいマットレスを交換し、患者様から「腰痛が改善した」「よく眠れるようになった」と喜ばれており、職員も嬉しい気持ちになりました。

まだ課題はありますが、患者様や職員の意見を聞きながら、さらに良い環境を整えていきたいと思います。新しい環境と患者様の声を力に変えて、これからも頑張ります！

東4病棟 主任 杉本 洋子

REPORT

職員レクリエーション旅行

ぶどう狩りバスツアー（令和元年9月13日）

平川病院、徳寿園のインターナショナルワーカーの皆さん平川淳一院長とともに、山梨ぶどう狩りツアーに行ってきました。夏の余韻、秋の気配、新宿から中央道をバスは走る。まずは富士五号目の雲の上、メロンパンに感激。続いて皆がジャパニーズバーベキューと呼んだ炉端焼きとほうとう鍋で満腹、お待ちかねの食べ放題ぶどう狩りでみんなはしゃいで大満足。あとは甲斐で意外なキムチ園、酒蔵で利き酒に舌も喜ぶグルメ旅。最後まで笑顔溢れ、親睦深まる1日でした。



広報委員会 大治 久恭

肥前精神医療センターからの研修受け入れを行いました

リハビリテーション科から

8月、佐賀県にある肥前精神医療センターからリハ医1名、作業療法士2名、理学療法士1名、言語聴覚士1名の研修受け入れを行いました。肥前精神医療センターは、九州地区の中でも珍しく精神疾患と身体合併症治療を並行して行っている病院の1つで、九州の他病院からの見学受け入れや、グループ病院向けの研修を開催している大規模な精神科病院です。

「先進的な『ITを用いた多施設共同研修プログラム』がスタートし、平成22年には『医師養成研修センター』という、既存の精神科病院にはない総合研修施設が完成しました。これからも精神科医師養成と臨床研修の中核施設として全国に向けて新たな知見や情報を発信し続けられるように進化していきます」とホームページで謳われているような病院からの研修依頼には、非常に驚きました。リハ医でもある橋本先生は、リハ医学会での講演を担当される高名な先生ですが、肥前精神医療センターの身体治療をさらに発展させるべく、当院への研修を希望されたとのことです。昨年は、その研修に当院院長とりハ科濱田主任が呼ばれ講演な

どを行っています。

研修は、当院のスタッフに付いて、みっちり見学して頂きました。見学では、患者の対応方法や診療の流れ等について実際の症例等を交えて説明いたしました。また、アネックス病棟での認知症リハの様子、嚥下チームの動きや、リハ科の書類等の運用や他職種連携、管理手法等についても多数の質疑があり、多くの情報交換とともに3日間を終えました。

見学や懇親会等を通して、たくさんの意見交換・情報交換ができ、受け入れを行ったリハビリテーション科スタッフにとっても実りある3日間になりました。どこでも悩みは一緒だな、と思う場面やこちらがすでに解決したことについては肥前精神医療センターの参考になったのではないか、と思います。今後このような機会があるかはわかりませんが、当院の治療が直接的な患者様の治療以外にも役立つことがあることは非常にうれしいことでもありますので、研鑽を重ね、社会に対して「Social Good」を広められるようにしたいと思います。

リハビリテーション科 科長 上薗 紗映

情報発信リニューアルします

地域生活支援室より

これまで「みやま」の「地域生活支援室より」のコーナーで、地域生活支援科（以下、支援科）の外来・訪問看護・デイケア・美山ヒルズの活動を紹介してきましたが科員より、記事の内容を再検討する提案がありました。最近支援科の中で行っている部門を超えた活動や、タイムリーな各部門の動きを取り上げたり、科内の職員誰もが書くようにしたらどうか、などです。そのためには、輪番で各部門が内容を決めるのではなく、どの月にどのような記事を出すのか、計画的に考えたらどうか、というものでした。

以上の提案になるほど！と納得し、まずは仕切り直しの意味で、石橋が支援科のことと書くこととなりました。

支援科は外来・訪問看護・デイケアを担当する部署の総称です。外来患者様が希望のある、自由でその人らしい人生を送れるように支援することをモットーにしています。そして、患者様の地域生活を支援するために、作業療法科など他の部署や、グループホーム美山ヒルズ、その他の地域の障害・介護サービスの支援機関と連携しています。

支援科は、部門ごとに成り立ち・活動場所・活動時間が異なり、職種も多様なため、1つの部署として互いの考え方や情報の共有を行う必要がありました。そこで、昨年度から月に1回支援科全体で話し合う機会をもうけ、作業療法科の外来担当、美山ヒルズやリハビリテーション科からも参加してもらっています。実際話し合ってみると、日常の連携では見えてこない互いの考え方を知り、刺激し合って新たなこともやってみようという気持ちになります。この話し合い以外にも、部門を超えたミーティングやワーキンググループによる活動も始めており、随時「みやま」でお伝えしていくたいと思います。

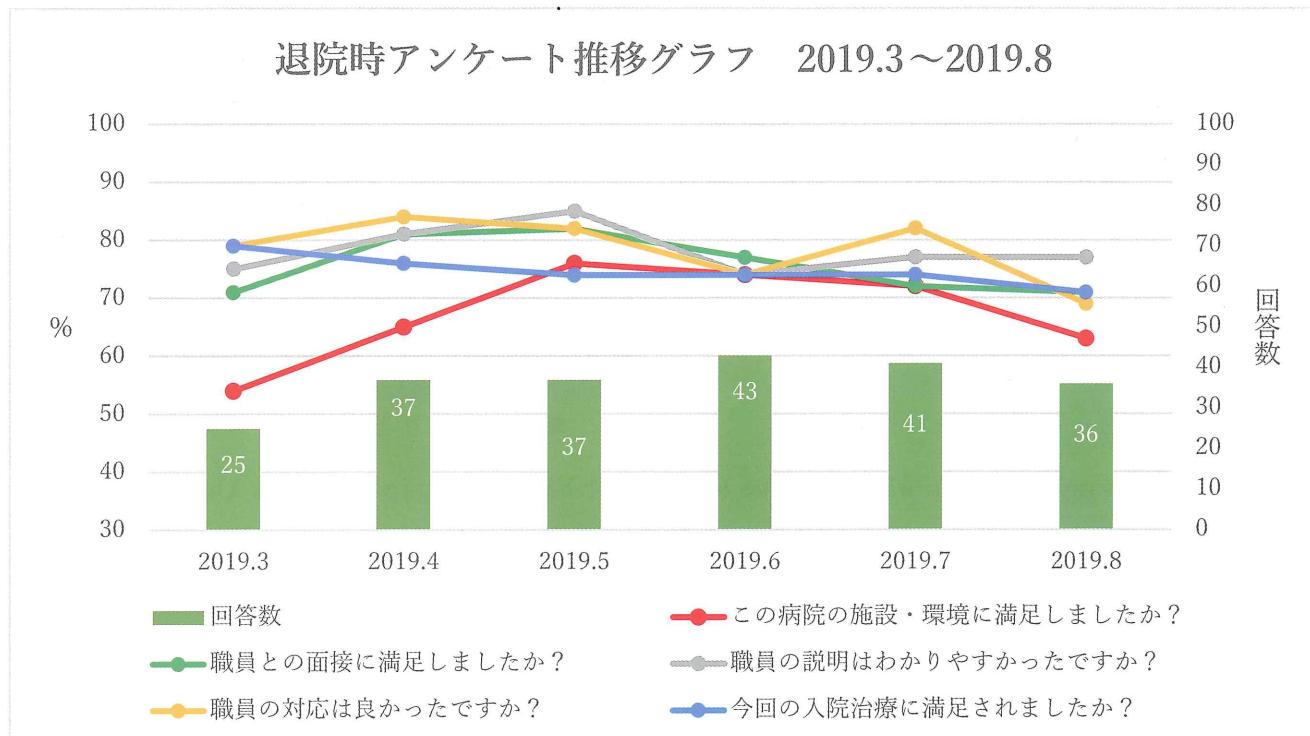
冒頭で記事の提案をしてくれた職員のことを書きました。これまでのやり方にとらわれずに考えようという1つのエピソードです。

今後も支援科の活動について、院内・地域との連携も織り交ぜながら、ご紹介ていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

地域生活支援科 科長 石橋 さおり

退院時アンケート推移グラフ -2019.3~2019.8-

平川病院では、退院される患者さまにアンケートにご協力いただき、その集計結果を毎月検討しております。2018.9号、2019.3号の広報誌「みやま」へ掲載した続編として、「この病院の施設・環境に満足しましたか」「職員との面接に満足しましたか」「職員の説明はわかりやすかったですか」「職員の対応は良かったですか」「今回の入院治療に満足されました」の5項目（前回同様の項目）を抜粋し、データをグラフ化しました。



※折れ線グラフは、アンケートにて「はい」と回答いただいたパーセント、棒グラフは有効回答数を示します。

2018年11月より、委員会にて「回答数を増加させる」ことを再検討し、病棟中心に様々な取り組みを開始しました。上記表にて回答数の平均は36.5と以前と比較し、回答数が増加しており、ご協力いただきました患者さま・ご家族さまに御礼を申し上げます。

上記グラフの推移を見ると、「職員の対応は良かったですか」の回答がほぼ70%~80%を占めており、前回より若干低い回答をいただいておりますが、高水準の%を維持しており、日頃より取り組んでいる職員の対応（接遇）等の質向上が実施された結果が表れ、一定のご評価を頂いたと職員一同感謝申し上げます。

ただ、前回「この病院の施設・環境に満足しましたか」の回答は、全体的に低い傾向でしたが、グラフ後半よりほぼ70%の回答をいただいており、改善傾向となっておりますが、引き続き、ハード面の課題を整えるよう、検討していきたいと考えております。

今後も引き続き、医療についての説明と合意をより丁寧に行い、患者さまへ満足いただけるよう高度な医療提供を目指してまいります。何かございましたら、外来や病棟に設置しております意見箱に、是非、ご意見を頂戴いただければ幸いです。

職員インタビュー (Nhân viên Cuộc phỏng vấn)

インターナショナルスタッフ：ブ ティ テウ チャンさん【ベトナム国籍】
(VU THI THU TRANG)

日本に来た当初、日本語が全く出来なかったので、日本語学校に通いました。また、介護の仕事が好きなため、日本福祉教育専門学校に入学して勉強しました。生活費を稼ぐため、訪問介護をはじめとした色々なアルバイトをやりながら、卒業するまでの2年間で様々な経験を積みました。

卒業後に平川病院で働くことになり、生活が大分変わりました。日本人のイメージも変わっています。来日当初は「冷たい」

「わがまま」「硬い」というイメージがあつたのですが、平川病院の職員の皆さんのが温かく親切で、いろいろな事を優しく教えてくださって、本当に感動しました。言葉も文化の違いもあると思いますが、これからももっと頑張りたいと思っています。

【ベトナム語訳 (Việt)】

Khi bước chân sang Nhật, tôi đã không thể nói tiếng Nhật, và đã gặp rất nhiều khó khăn. Vì vậy, tôi đã vào học 1 trường tiếng Nhật trong 2 năm. Sau đó, tôi tiếp tục thi vào trường cao đẳng chuyên đào tạo điều dưỡng viên tại Tokyo. Để kiếm sống và trang trải học phí, ngoài giờ học trên lớp, tôi làm việc bán thời gian, với nhiều nghề khác nhau và đã có nhiều kinh nghiệm sống cũng như khả năng tiếng Nhật được nâng cao.

Sau khi tốt nghiệp, tôi đã ứng tuyển và làm việc tại bệnh viện Hirakawa. Cuộc sống tôi thay đổi và ổn định hơn trước rất nhiều. Hình ảnh về người Nhật cũng thay đổi dần trong tôi. Khi mới bước chân sang Nhật, người Nhật trong tôi là gì đó rất lạnh lùng, ích kỷ, khô khan và bảo thủ, nhưng tại nơi đây, tôi thật sự ấn tượng bởi sự ấm áp, chu đáo, và nhiệt tình của các nhân viên tại bệnh viện Hirakawa. Tôi biết rằng, sẽ còn những khó khăn trước mắt, những bất đồng ngôn ngữ, văn hóa và cách suy nghĩ khác nhau giữa Nhật-Việt, nhưng đó sẽ là động lực để tôi ngày càng cố gắng và phát triển bản thân hơn nữa.



筆者：勤務するアネックス病棟で

編集後記

台風19号は、各報道機関が「S33の狩野川台風に匹敵する史上最大のクラス…」夕方になっても「これから接近しますので、甚大な被害を想定して慎重に行動して下さい」と泊まっている身としては、緊張するしかない状況。ただハ王子付近の予報としては、10/12の22時には雨の峠を過ぎると…実際に日が変わる頃には、雨も弱まりホット一息。テレビでは、浅川が危険水位域を超える川大橋に水が迫る映像、次の日に日野橋が曲がり通行止めとの報道…。ハ王子地区において被害にあった地域もあり1日も早い復旧を願うばかりです。台風の日に出勤した職員の皆さん患者さんのために、本当にお疲れ様でした。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076
電話 042-651-3131
FAX 042-651-3133
編集 平川病院 広報委員会
ご意見ご感想はこちらへお願いします
kouhou@hhsp1966.jp

**HIRAKAWA
HOSPITAL**

